

新型コロナウイルス禍での委員会活動の工夫

上尾中央医科グループ□検査部□超音波委員会□活動報告□第5報

◎増田 章子¹⁾、石渡 志穂美²⁾、野本 隆之³⁾、山田 志穂⁴⁾、渡辺 智美⁵⁾、三橋 順子⁶⁾、小林 竜一⁷⁾
上尾中央医科グループ 白岡中央総合病院¹⁾、金沢文庫病院²⁾、上尾中央第二病院³⁾、三郷中央総合病院⁴⁾、アルシエクリニック⁵⁾、伊奈病院⁶⁾、上尾中央医科グループ協議会⁷⁾

【はじめに】上尾中央医科グループ（以下 AMG）は 28 病院と 12 クリニック等を開設している。その中で超音波検査に従事している臨床検査技師はおよそ 200 人に及び、検査方法や内容は多岐にわたる。我々 AMG 検査部超音波委員会は 2008 年に発足、各病院施設で実施する超音波検査の施設間差や技術格差をなくし技術や品質の標準化をめざして活動してきた。2020 年新型コロナウイルス感染症のパンデミックに直面したが、今回内容を工夫することで委員会としての活動を継続したので報告する。

【対象・方法】従来、集合型で行っていた委員会開催、施設巡視、実技研修の企画運営を見直した。委員会は委員 11 名のまま web 会議へ変更、施設巡視は超音波を実施している 30 施設にメールでのアンケート調査のみとした。実技研修は web による動画配信型へ変更し、参加対象は AMG 検査部希望者全員とした。研修会後のアンケート調査は用紙の運用からアプリの運用へと変更した。

【結果】委員会開催と施設巡視においては移動時間や交通費の削減ができた。しかし委員会開催では各自施設での参加となり運営に支障はない範囲であったが途中参加や離席・退席などがあった。施設巡視では目視ではないため現場の状況が分かりづらく対面でないため技術的サポートの返答も遅くなった。実技研修は対象者を広げられたため参加人数は従来の約 7 倍となった。また参加者の都合に合わせた時間や場所での参加や繰り返しの視聴もできた。しかしハンズオンや質疑応答ができなかった事などが課題となった。アンケート調査はアプリのため集計もしやすかったが、その場での回答ではなかったため回収率は下がった。

【まとめ】新型コロナウイルス禍において通常業務だけでも激務となった中ではあったが、活動内容を工夫することで従来からの委員会の役割を継続することができた。新たな試みとして行った web による動画配信研修会は思いのほか反響が大きく好感触であった。しかし施設巡視には大きな課題が残り改善が必要となった。今後も活動内容を工夫することで感染症の大規模な流行にも左右されずに AMG 検査部内における超音波検査の標準化を目指して活動していきたい。 連絡先 0480(93)0661 内線 235